

手をとりあって、 ごみを減らそう！



京都市ごみ減量推進会議

High
Moon

もくじ

- | | | | |
|--------------|---|-------------|----|
| ・ 御挨拶・祝辞 | 1 | ・ 表彰 | 17 |
| ・ 設立20周年記念式典 | 3 | ・ 更なる発展に向けて | 18 |
| ・ 20年のあゆみ | 7 | ・ 会員一覧 | 19 |

御 挨拶



京都市ごみ減量推進会議 会長

高月 紘 (京エコロジーセンター館長)
(京都大学名誉教授)

今年度、京都市ごみ減量推進会議は20周年の節目を迎えることができました。これも、ひとえに皆様の御理解と御協力あつてのことであり、改めて感謝を申し上げます。

思い返せば、同志社大学の郡嶋孝先生（現：当会議顧問）と「ごみ減量は行政だけに任せるのではなく、我々市民や事業者が主体的に進めなければならない」という結論に行きついたのが、京都市ごみ減量推進会議の始まりでした。

設立当初は細々とした活動で、会員数も120弱というものでありました。しかし、徐々に活動の幅を広げ、今では会員数も500団体を超え、パートナーシップを活かしてごみ減量の大切さを市民の立場から啓発し、また地域と一体となつてごみ減量の取組を実践できるようになりました。名前もいつしか「ごみ減」という愛称で呼ばれるようにもなりました。

現在、啓発ブース出展、企業や親子向けの講座、再生紙推進事業、秘密書類リサイクル事業、フリーマーケットなど、多岐にわたる活動に取り組んでいます。そして、社会に先行する形で2R（リデュース、リユース）を活動の大きな柱の一つに据え、2R型エコタウン構想を掲げ、2Rに関わるモデル事業の実施、文化や情報発信にも力を入れているところです。

また、会員のうち、地域でごみを減らす活動の組織体である地域ごみ減量推進会議も、200団体を超えました。この地域ごみ減量推進会議の存在が、当会議を非常に特徴ある組織にし、活動の原動力となっています。

京都市の一人あたりのごみ排出量は政令指定都市の中では最も少なく、当会議の活動も貢献できたのではないかと考えていますが、平成27年10月、ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」*の改正施行を踏まえ、一層のごみ減量を目指して取り組んでいかなければいけません。

この20周年という大きな節目を皆様と喜ぶとともに、更なる10年、20年先の未来へ向けて、市民・事業者・行政のパートナーシップのもと、市民の立場で地域に根差した活動を継続、発展させ、「人づくり」「まちづくり」につなげていこうという決意の機会にしたいと思います。引き続き皆様の御理解と御協力を、よろしく申し上げます。

*ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」：「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」の愛称
(平成28年12月18日 設立20周年記念式典挨拶から)

祝 辞



京都市長
門川 大作

市民、事業者、専門家の皆様と行政が対等の立場で参画し、ごみの減量に向けて共に汗しながら取り組む。そんな他都市に類を見ない、まさに京都が全国に誇る団体が「京都市ごみ減量推進会議」です。高月紘会長をはじめ、熱心な御活動を続けてこられた会員の皆様に深く敬意を表しますとともに、その貴い歩みが、この度設立20周年の節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

本市のごみ量は、ピークであった平成12年度の年間82万トンから年々減少し、平成27年度には44万トンを下回るまでになりました。市民一人・一日当たりの御家庭からのごみ量は417gと、全国の大都市の中で最も少なくなっています。

ごみが少なくなったことにより、5箇所あったクリーンセンターを3箇所に減らすことができ、処理費用も大幅に削減。その財源を福祉や教育をはじめ、京都の未来を創る事業に充てることができています。これも皆様の御活動の賜物であり、本当に頭の下がる思いを致しております。

周囲の豊かな自然と共存しながら限りある資源を大切にし、良いものは少しでも長く使い、世代を超えて受け継いでいく。皆様の御活動は、そんな「もったいない」「しまつのこころ」といった京都に息づく日本伝統の精神文化を大切にされるお取組であり、大変意義深いものです。

本市といたしましても、文化庁の全面的な移転を好機と捉え、皆様のお取組に力を頂きながら、環境、福祉、教育などあらゆる施策と文化を融合させ、文化の力で日本を元気にする取組に全力を尽くしてまいります。

結びに、「京都市ごみ減量推進会議」がこの度の20周年を機に、30周年、40周年、更にその先の未来へと大きく飛躍を遂げられますこと、並びに会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたします。

設立20周年記念式典

平成28年12月18日（日） 於：京都タワーホテル

高月紘会長の挨拶、門川大作京都市長の祝辞の後、感謝状の贈呈、記念講演・鼎談、交流会が行われました。

当日、会員団体を始め、これまでの事業の関係者、協力いただいた方など、総勢約160名が参加されました。



高月紘会長による挨拶



御参加いただいた皆様



門川大作京都市長からの御祝辞



感謝状贈呈



崎田裕子氏の御講演



原田禎夫氏の御講演



交流会



秋人氏によるパフォーマンス

設立20周年記念式典

～感謝状贈呈～

当会議設立当初から現在まで、継続的に事業の実働を担っていただいた会員団体に、改めて感謝の意を表すため、次の会員団体に感謝状を贈呈しました。



団体名

京都市紙リサイクル事業協同組合

代表者名 理事長 谷藤 佳孝

活動概要

紙類の回収に携わる問屋8社により組織された組合で、京都市域の紙類の適正なりサイクルの促進に関する事業を実施。

感謝状贈呈理由

学校給食の牛乳パック回収事業の構築に協力、長年にわたり事業を支え、紙のリサイクル啓発とごみにしない事業の維持に貢献いただきました。

団体名

京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会

代表者名 会長 山内 寛

活動概要

京都市ごみ減量推進員研修を終了した者の集まりで、各地域において、ごみ減量・分別やリサイクルの推進・買い物袋持参運動などを展開。環境学習会の出前も行って環境保全を促進。

感謝状贈呈理由

さまざまなイベントへの啓発ブース出店を牽引し、またその中心を担い、市民に対するごみ減量の啓発活動を長年にわたり支え、活動に協力いただきました。

団体名

京都府紙料協同組合

代表者名 理事長 澤田 修一

活動概要

京都府における製紙原料に携わる同業有志の20社により組織された組合で、紙のリサイクルを促進し、ごみの減量につながる事業を実施。

感謝状贈呈理由

秘密書類回収事業に協力、長年にわたり事業を支え、紙の分別・リサイクルの推進とごみにしない事業の維持に貢献いただきました。

団体名

日本環境保護国際交流会（J.E.E.）

代表者名 事務局責任者 細木 京子

活動概要

1987年に設立された国際的な非営利の市民グループで、情報の発信と人的交流を通じて環境教育を目的として活動。

感謝状贈呈理由

こどもワークショップ「まんがを描いてごみを減らそう」の実施を事業当初から中心メンバーとして支えるなど、主に子どもたちに対するごみ減量の啓発活動を長年にわたり支え、活動に協力いただきました。

設立20周年記念式典 ～記念講演～

メインテーマ：「ごみ減の20年とこれからの発展へのエール」

講演

「連携による循環型社会の推進

『ごみ減へのエールと、20年の全国の動き』～持続可能な未来を見すえて～

崎田裕子氏（ジャーナリスト、環境カウンセラー、環境省中央環境審議会委員）

『海、川、つながるごみ・人・地域』内陸部から海ごみの発生抑制に向けて」

原田禎夫氏（大阪商業大学経済学部准教授、NPO法人プロジェクト保津川代表理事）

鼎談

浅利美鈴氏（2R型エコタウン構築事業実行委員会委員長、京都大学地球環境学堂准教授）

崎田裕子氏（ジャーナリスト、環境カウンセラー、環境省中央環境審議会委員）

原田禎夫氏（大阪商業大学経済学部准教授、NPO法人プロジェクト保津川代表理事）

浅利

今日は幅広く活躍されているお二人に来ていただいておりますので、今後、次の20年に繋がるようなヒントももらえるような場にできたらなと思っております。私たちが当たり前と思っていることが、意外と外から見たら「京都ってここがすごい」と思っていたいただいているところもあるんじゃないでしょうか。

まず、「京都ならでは」とか、「期待すること」みたいなことをお話いただけたら。

崎田

やっぱり長い歴史とか文化を持っておられるので、その良さを大事にしながら、次に、何をやるのが大事なのかということをごくしっかり考えておられる。歴史がありつつ、非常にチャレンジ精神が大きい、そういうような感じがしています。

法律のシステムは、リサイクルをすごく徹底して作っている一方、リデュース、リユースのところは、なんかこう、みんなで心がけましょね、という雰囲気がすごく強いんです。そこのところにしっかりした制度を組み込むのが、日本の循環型社会の制度の、一番重要なところだと思ってるんですね。

京都のみなさんが地域のレベルで2Rに取り組み、広げていただいているのがすごくうれしいです。

また、食品ロス対策や都市鉱山からの金メダルづくりといった、市民や事業者が連携した取組の具体例を作っていくことにとっても期待をしています。



今、本当に多くの観光客の方が、京都にはいらっしゃる。そういう時期に、日本の心とか、京都の心を世界に発信していただければうれしいなと思います。

原田

海外に行くと感じるのが、京都の知名度の高さなんです。例えば祇園祭のリユース食器なども。これは京都の皆さんが思っている以上に、首都圏、あるいは海外での驚きはすごいですね。

世界から参考にされているということをもっともっと自信をもっていただきたい。そして私はこれ、我慢じゃなくて、ビジネスに繋がると思ってますよね。環境に良いことをするというのは、我慢じゃなくて、きっとビジネスに繋がる話だと思います。

浅利

ありがとうございます。

最近、36年目になる家庭ごみの細組成調査をさせていただきます。ごみを見てもやっぱり高齢化してるな、どんなにがんばっても、これからごみが増えていくんじゃないかなって思う風にもあるんですね。だからこそ、ごみのことだけではなくて、福祉とか健康とか、合わせ技でいかなきゃいけない。また、最近注目されている“子ども食堂”とか、“フードバンク”などは、貧困問題とか、教育とか、もう本当に複雑なものが絡んでいる。

もう一つ何か視点を持ったごみ減になっていく次の一步として、例えば“半ごみ半X（エックス）”という考え方がありますが、他にどんな視点があげられるでしょうか。

原田

“半農半ごみ”がいいと思うんです。

例えば、生ごみって結構水分が多いので困ったごみなんですけど、やりようによってはたい肥のように資源になるんですね。そして、貸農園。これは食べ物をすぐそばで作ろうよ、ということですよ。この貸農園と組み合わせる。

伝統野菜なんかがたくさんあるまちですから、京都の町なかでこそ、“半農半ごみ”をしていただきたい。

崎田

もともとやっぱりごみ問題は、ごみだけじゃなくて、CO₂削減とか自然資源を大切に使うとか、あらゆることと繋がっている。それをやっぱり具体的な地域づくりの中で実践することが大切だと思っています。

だから“半ごみ半X”というよりも、暮らし全体・まち全体をみんなで考える、そういうことが本当に現実になってくるんじゃないかなという風に思っています。

自分たちのこれからの暮らしの中で、多様な世代の人々が楽しく暮らせるように一緒にライフスタイルを作っていく。その大事な入口としてごみのことがあるし、そこにはいろんなライフスタイルがあるという風に自然に思っていたくのがいいと感じています。

浅利

では、今後の、次の20年に向けたエール、もしくは期待することをお願いします。

崎田

どれだけ多くの世代の人を巻き込んで、やっぱり、自分たちが大切にしていることを伝えていけるかというところにかかっているかなと思うんですね。

これは結構真剣にやらないといけない。

2020年のオリンピック・パラリンピックは発信力の強い、いい機会だと思っているんですね。

この機会に、都市鉱山回収を徹底してメダルを作る、大量に調達する什器類の使用後のリユース市場を作る、キャンプ地や選手村で食品ロス削減を徹底する、リユース食器も活用してごみゼロイベントに挑戦する。こういった一つ先のシステムを採用してやってみるとのことです。「あ、これなら次の社会でみんなのできるね」ということがピンとくれば、その後定着できるわけで、いろんなことにチャレンジをしたいですね。

ぜひうまく、2020年をきっかけにしながら、レガシーとしてその次に向けて広げていければいいなと思います。

原田

2018年、エストニアの皆さんが世界に呼びかけて9月8日に、「Let's Do It! (レッツ ドゥ イット)」(「さあ、やろう!」)、目標150か国以上で世界一斉にごみ拾いをしようとされています。

これが、日付変更線の関係から日本から始まってハワイで終わると。そこで、その狼煙を日本の中でも京都からあげたいと思っています。

日本がバトンを引き継いで、またその後はどこかの国に引き継いで、友だちを世界に増やす。京都、そしてごみ減の活動もぜひ一緒に取り組めたら、そしてごみ減の活動がさらに多くの人に広まれば、そして次の20年はもっと素晴らしいものになると思います。

浅利

最後に、私からも。

今の学生さんたちというのは、今さら環境問題といわれても、あんまり新鮮味がなく何かやることあるのかな、というような顔をしているというのが結構ありますが、やっぱりそんな甘くはない。

将来どんな時代になるかわからない中で、今まで培ってきたことが、世界に誇れる今の状況を作っているんだということを、実際に取り組まれている皆さんから口酸っぱくして言っていただきたい。

そんな中で、たぶん多様な世代の交流も生まれてくると思います。知らない間にまた別の形で受け継がれていく部分もあると思います。

もう一つ。昨年ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」が施行されましたが、この機会に、皆さんが受け継いでこられた“こころ”をぜひ教えていただきたい。それをぜひ、日本に、若い世代にも発信していければなと思います。

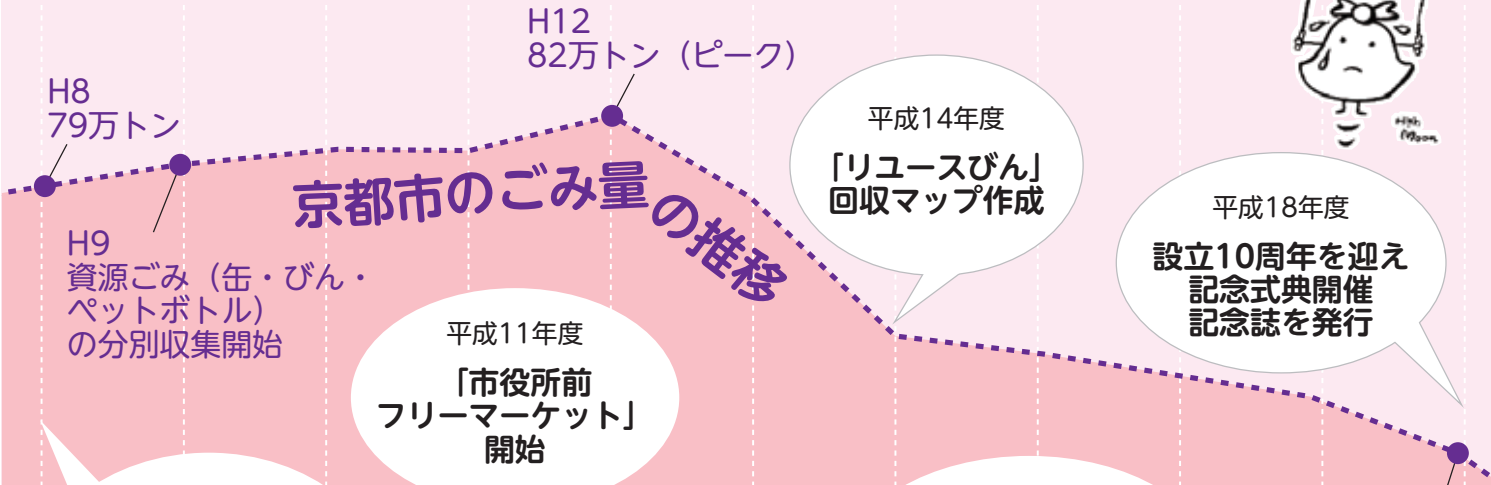
ごみ減の20年とこれからの発展へのエールということでお話をいただきました。本当にありがとうございました。

(12/18 鼎談から(一部抜粋))

20年のあゆみ



京都市のごみ量の推移



平成8年度
「ごみ減」誕生
初の「地域ごみ減」が
左京区で設立

平成9年度
「秘密書類
リサイクル事業」
開始

平成10年度
学校給食用
牛乳パックの
リサイクル事業に
参画

平成11年度
「市役所前
フリーマーケット」
開始

平成12年度
企業向け
「ごみ減量実践講座」開始
HP開設

平成13年度
こどもワークショップ
「まんがを描いて
ごみを減らそう」
開始

平成14年度
「リユースびん」
回収マップ作成

平成15年度
地域ごみ減の
施設見学会開始

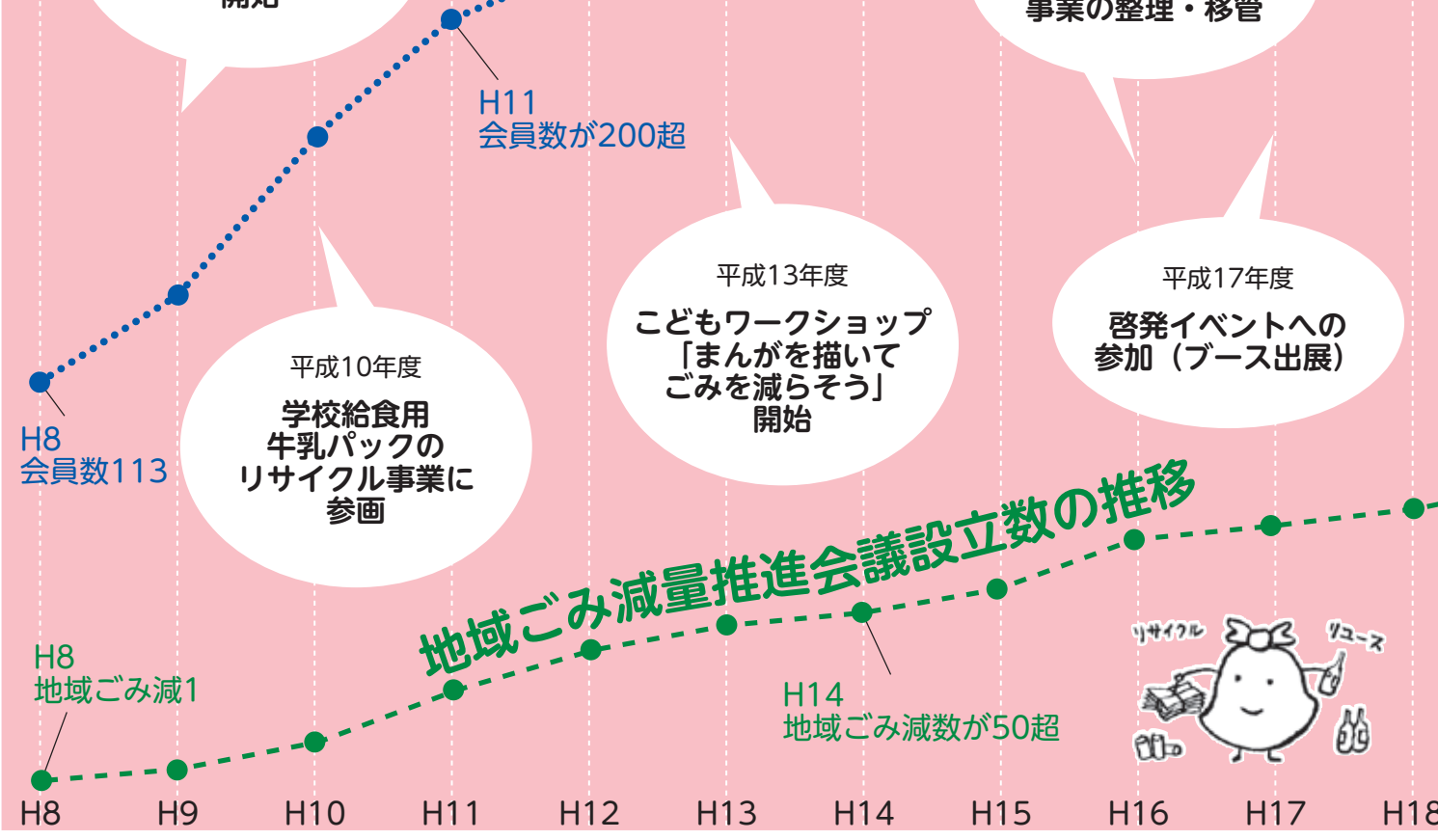
平成16年度
各実行委員会の
事業の整理・移管

平成17年度
啓発イベントへの
参加 (ブース出展)

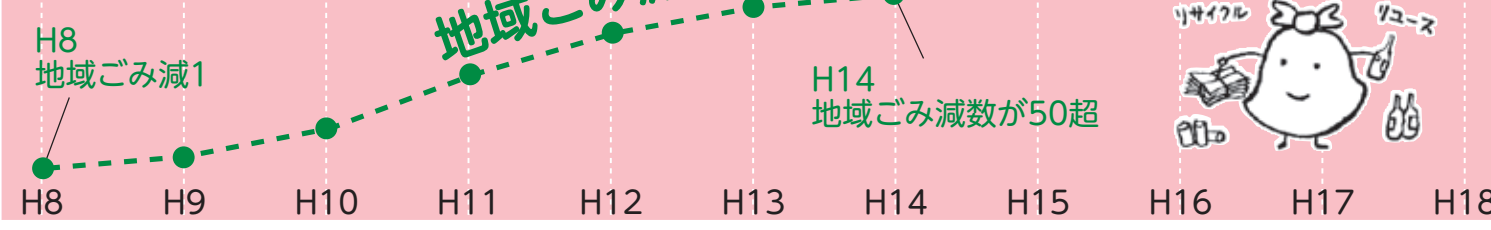
平成18年度
設立10周年を迎え
記念式典開催
記念誌を発行

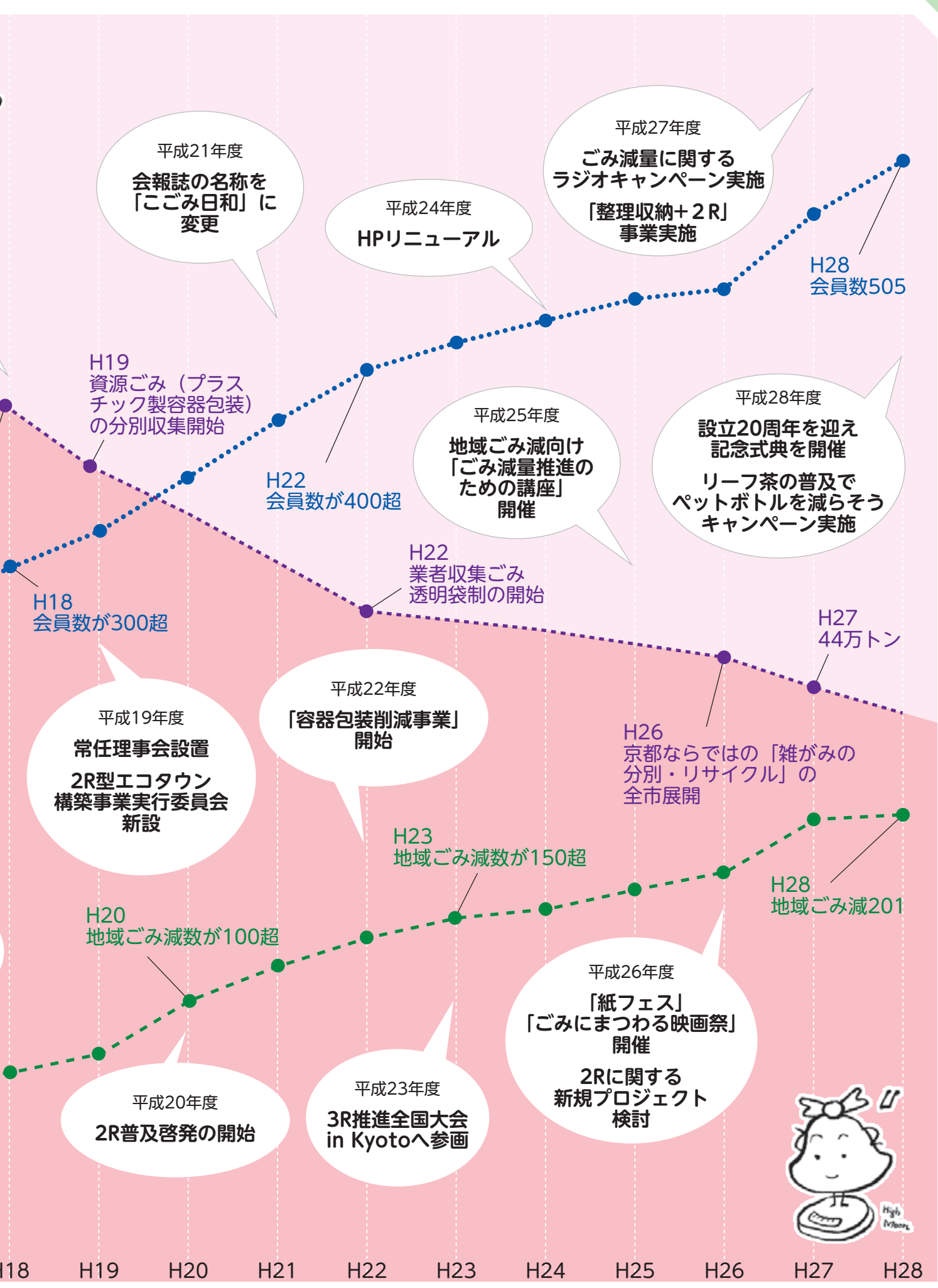
H18
家庭ごみ有料
指定袋制の開始

京都市ごみ減量推進会議会員数の推移



地域ごみ減量推進会議設立数の推移





平成21年度
会報誌の名称を
「ごみ日和」に
変更

平成24年度
HPリニューアル

平成27年度
ごみ減量に関する
ラジオキャンペーン実施
「整理収納+2R」
事業実施

H28
会員数505

H19
資源ごみ（プラス
チック製容器包装）
の分別収集開始

平成25年度
地域ごみ減向け
「ごみ減量推進の
ための講座」
開催

平成28年度
設立20周年を迎え
記念式典を開催
リーフ茶の普及で
ペットボトルを減らそう
キャンペーン実施

H22
会員数が400超

H22
業者収集ごみ
透明袋制の開始

H18
会員数が300超

H27
44万トン

平成19年度
常任理事会設置
2R型エコタウン
構築事業実行委員会
新設

平成22年度
「容器包装削減事業」
開始

H26
京都ならではの「雑がみの
分別・リサイクル」の
全市展開

H23
地域ごみ減数が150超

H28
地域ごみ減201

H20
地域ごみ減数が100超

平成26年度
「紙フェス」
「ごみにまつわる映画祭」
開催
2Rに関する
新規プロジェクト
検討

平成20年度
2R普及啓発の開始

平成23年度
3R推進全国大会
in Kyotoへ参画



H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28

20年のあゆみ (年表)

年度	組織に関すること	ごみ減量に関する全市的キャンペーンの実施 ／全市的キャンペーン実行委員会	地域ごみ減量推進会議の設立、活動支援 ／地域活動実行委員会
平成8 (1996) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●11月27日設立 (設立総会開催) ○会員数：113 市民団体：26、地域ごみ減：1、マスメディア：11、専門家：5、大学等：0、事業者団体：22、企業等：47、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●簡易包装推進キャンペーンの実施 ●記念講演会の実施 ●新聞・ラジオ等の媒体によるキャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域ごみ減量推進会議の設立支援 ○地域ごみ減新規設立数：1 (下鴨・松ヶ崎 (合同で活動))
平成9 (1997) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：145 市民団体：27、地域ごみ減：3、マスメディア：11、専門家：5、大学等：4、事業者団体：28、企業等：66、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●簡易包装推進、買い物袋持参キャンペーンの開始 (～H21) ●ごみアート展の開始 (～H12) ●「調査研究」事業の開始 (～H17) ●キリンビール工場でのフリーマーケット実施 ●空き缶徹底討論会の開催 ●買い物袋デザイン募集・制作 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：2 (聖護院・川東・新洞 (合同で活動)、西野) (下鴨・松ヶ崎→下鴨・松ヶ崎・葵 (合同で活動))
平成10 (1998) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：193 市民団体：36、地域ごみ減：11、マスメディア：11、専門家：5、大学等：6、事業者団体：34、企業等：89、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみってなんやウィーク'98の開催 ●再生紙利用促進キャンペーン開始 (～現在) 学校給食用牛乳パック (学乳パック) のリサイクル事業に参画 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：8 (安寧、春日、葛野、嘉楽 (メガロコープ西陣)、大將軍、常磐野、下鴨・松ヶ崎・葵がそれぞれ独立して3団体として活動)
平成11 (1999) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●体制強化のため、理事の定数を20人から25人に増員 ○会員数：228 市民団体：39、地域ごみ減：27、マスメディア：11、専門家：5、大学等：7、事業者団体：37、企業等：101、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●学乳パックリサイクルのトイレットペーパーの名称を「めぐレット」に決定、普及啓発の開始 (～現在) ●市役所前フリーマーケット開始 (～現在) ○学乳パック回収量：83トン 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：16 (大原野、御室、桂川、桂坂、桂東、京極、山階南、滋野、七条第三、聚楽、正親、鷹峯、中立、広沢、南太秦、室町)
平成12 (2000) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●自主財源を確保するため、会費徴収を開始 ○会員数：245 市民団体：41、地域ごみ減：39、マスメディア：11、専門家：5、大学等：10、事業者団体：36、企業等：102、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ○学乳パック回収量：121トン 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：12 (桂、上賀茂、嵯峨、紫竹、淳風、成逸、出水、花園、鳳徳、元町、山ノ内、楽只)
平成13 (2001) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：258 市民団体：38、地域ごみ減：47、マスメディア：11、専門家：5、大学等：11、事業者団体：40、企業等：105、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●こどもワークショップ「まんがを描いてごみを減らそう」開始 (～現在 (ごみアート展から発展)) ●市民向け実践講座の開始 (～H16) ○学乳パック回収量：122トン 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：8 (宇多野、大塚、音羽川、椋原、川岡、川東 (聖護院・川東・新洞 (合同で活動) から独立)、朱雀第四、砂川)
平成14 (2002) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●京エコロジーセンターに当会議の活動スペースが誕生 ●京エコロジーセンタープロジェクトチーム設置 ○会員数：258 市民団体：35、地域ごみ減：51、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：37、企業等：106、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●リユースびん回収マップ事業の開始 (～H24) ○学乳パック回収量：130トン 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：4 (小川、勸修、朱雀第三、待賢)
平成15 (2003) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：267 市民団体：35、地域ごみ減：58、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：37、企業等：108、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ○学乳パック回収量：130トン 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域ごみ減施設見学会開始 (～現在) ○地域ごみ減新規設立数：7 (鏡山、下鳥羽、月輪、百々、福西、桃山南、六原)

情報収集提供活動のために必要な事業 ／広報活動実行委員会 (H14～)	秘密書類リサイクル事業 ／事業化委員会 (H11～)	国、京都市の動き (○：国、●：京都市)
●クイズ形式のワークショップの実施	(次年度の事業開始に向けた準備)	○環境基本法施行 (H5) ○第一次環境基本計画策定 (H6) ○容器包装リサイクル法制定 (H7)
●会報誌発行 (～現在) ●KBSラジオによる啓発の実施 ●リーフレット作成 (～現在)	●秘密書類リサイクル事業の開始 (～現在) ○秘密書類回収量：303トン	○容器包装リサイクル法本格施行 ●「京都市環境基本条例」を施行
●再生紙利用に関するアンケート調査の実施	○秘密書類回収量：537トン	○家電リサイクル法制定 ●環境局が新設 ●「京都市一般廃棄物 (ごみ) 処理基本構想」を策定 ●「京 (みやこ) のアジェンダ21フォーラム」設立
●企業会員の学習会の実施	●レジ袋の透明化、資源物回収袋の企画検討実施 ○秘密書類回収量：548トン	●「新京都市一般廃棄物 (ごみ) 処理基本計画～京・めぐるプラン～」を策定 ●缶・びん・ペットボトル用透明ごみ袋の推奨制度導入
●エコロジーはエコノミー「企業向けごみ減量実践講座」開始 (～現在) ●ホームページ開設 (～現在)	○秘密書類回収量：655トン ●事業系ごみ「推奨袋」導入の検討を実施	○第二次環境基本計画策定 ○食品リサイクル法、建設リサイクル法制定 ●水垂埋立処分地閉所 ●東部山間埋立処分地 (エコランド音羽の杜) 供用開始
●エコロジーはエコノミー「企業向けごみ減量実践講座」施設見学ツアー開始 (～現在)	●事業系ごみ「推奨袋」に関するアンケート実施、製品化 ○秘密書類回収量：503トン	○家電リサイクル法施行 ○食品リサイクル法施行 ●家庭用家電4品目リサイクル開始 ●北部クリーンセンター停止、東北部クリーンセンター本格稼働
●資源ごみ徹底作戦の実施	●事業系ごみ「推奨袋」の発売開始 ●商店街のKES取得支援の実施 ○秘密書類回収量：538トン	○第一次循環型社会形成推進基本計画策定 ○自動車リサイクル法制定 ●京都市環境保全活動センター (京エコロジーセンター) 開館
●「こんなものどう扱えばいいの？」～適正処理困難物の資源化を考えるフォーラム～の開催	●古川商店街振興組合のKES取得 (商店街初) 支援 ●大津板紙 (株) の施設見学 ○秘密書類回収量：587トン	●京都市廃棄物減量等推進審議会から「京都市における循環型社会の形成に向けた提言」を市長に提出 ●「京都市循環型社会推進基本計画～京のごみ戦略21」策定

年度	組織に関すること	普及啓発実行委員会	ごみ減量事業化実行委員会
平成16 (2004) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●各実行委員会の事業の整理、移管 ○会員数：287 市民団体：36、地域ごみ減：73、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：37、企業等：112、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●会報誌の発行（H9～現在）、ホームページ更新（H12～現在） ●市民向けごみ減量実践講座（H13～16） ●企業向けごみ減量実践講座・ミニツアー（H12～現在） ●買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン（H9～21） ●子どもワークショップ「まんがを描いてごみを減らそう」（H13～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●再生紙利用促進事業（H12～現在） ●秘密書類リサイクル事業（H9～現在） ●市役所前フリーマーケットの開催（H11～現在） ●リユースびん事業化活動（H14～24） ●事業系ごみ「推奨袋」の利用拡大（H13～17） ○学乳パック回収量：172トン ○秘密書類回収量：647トン
平成17 (2005) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：296 市民団体：38、地域ごみ減：77、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：37、企業等：115、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ減啓発イベントへの参加（～現在） （各行政区のふれあいまつりに京都市ごみ減量めぐくん推進友の会と連携し参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学乳パック回収量：140トン ○秘密書類回収量：683トン
平成18 (2006) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●自治記念式典表彰、リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰「内閣府特命担当大臣賞」受賞 ●「マイバック等の持参促進及びレジ袋の削減に関する協定」への参加 ○会員数：314 市民団体：40、地域ごみ減：82、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：37、企業等：126、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●包装材回収ボックスの設置・利用促進事業の実施（～H22） 	<ul style="list-style-type: none"> ●リユースびん再使用システムに向けた取組を実施 ●「リユースびん流通システムー京都モデル」発表 ○学乳パック回収量：159トン ○秘密書類回収量：710トン

平成8～18年度の活動写真



設立総会



ごみアート展



地域ごみ減の設立集会



「めぐレット」名称発表会



会報誌

20年のあゆみ（年表）

地域活動実行委員会	その他の活動	国、京都市の動き(○：国、●：京都市)
<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：15 (粟田、大宮、音羽、小野、上鳥羽、唐橋、九条、山階、朱雀第二、植柳、醍醐西、待鳳、東和、紫野、陵ヶ岡) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「調査研究」事業（H9～17） 	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車リサイクル法施行 ●リターナブルびん（生きびん）等の拠点回収の開始 ●コミュニティ回収制度の創設 ●プラスチック製容器包装の分別収集を約1割世帯（約72,000世帯）に拡大 ●西部クリーンセンターの休止により4工場体制へ
<ul style="list-style-type: none"> ●各区ミーティングの開催（～現在） ○地域ごみ減新規設立数：4 (上高野、桂徳、祥栄、納所) 		<ul style="list-style-type: none"> ●京都市廃棄物減量等推進審議会から「今後のごみ減量施策のあり方について」（答申）を市長に提出 ●ごみ収集区域の拡大（右京区京北）
<ul style="list-style-type: none"> ●行政区単位での活動支援の開始（～現在） ○地域ごみ減新規設立数：5 (梅津、北白川、嵯峨野、高雄、塔南) 	<ul style="list-style-type: none"> ●調査研究事業「市民公募型パートナーシップ事業」開始（H18～24（旧：「調査研究」）） ●設立10周年記念事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○第三次環境基本計画策定 ●電動式生ごみ処理機、コンポスト容器の購入助成制度の開始 ●家庭ごみの有料指定袋制を開始 ●コミュニティ回収制度への助成制度の開始 ●蛍光管の拠点回収の開始 ●南部クリーンセンター第二工場の休止 ●「マイバック等の持参促進及びレジ袋の削減に関する協定」締結



地域ごみ減の活動



市役所前フリーマーケット



設立10周年記念式典



リデュース・リユース・リサイクル
推進功労者表彰受賞



設立10周年記念式典（交流会）

年度	組織に関すること	普及啓発実行委員会	ごみ減量事業化実行委員会
平成19 (2007) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 2 R 型エコタウン構築事業実行委員会を新設 ● 理事定数を30人に増やし、常任理事会を設置 ● 事務局を市役所から京エコロジーセンターへ移転 ● 事務局体制を強化するため、嘱託職員を雇用 ○ 会員数：331 市民団体：43、地域ごみ減：91、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：38、企業等：130、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民公募型パートナーシップ事業を「その他の活動」から移管 	<ul style="list-style-type: none"> ● KES普及セミナー開催 ○ 学乳パック回収量：149トン ○ 秘密書類回収量：677トン
平成20 (2008) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員数：356 市民団体：45、地域ごみ減：115、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：38、企業等：129、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学乳パック回収量：151トン ○ 秘密書類回収量：665トン
平成21 (2009) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員数：383 市民団体：45、地域ごみ減：132、マスメディア：11、専門家：5、大学等：12、事業者団体：40、企業等：137、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ● 会報誌リニューアル、名称を「こごみ日和」へ変更 ● 3 R 活動普及・推進事業の開始（3 R・低炭素社会検定と連携）（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学乳パック回収量：161トン ○ 秘密書類回収量：774トン
平成22 (2010) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員数：406 市民団体：48、地域ごみ減：145、マスメディア：10、専門家：5、大学等：13、事業者団体：40、企業等：144、行政：1 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学乳パック回収量：171トン ○ 秘密書類回収量：717トン
平成23 (2011) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 更なる事業実施体制の強化のため、専門嘱託職員を雇用 ● 第6回3 R 推進全国大会in Kyotoへの参画 ○ 会員数：419 市民団体：47、地域ごみ減：153、マスメディア：10、専門家：5、大学等：14、事業者団体：37、企業等：152、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページリニューアルに向けた検討実施 ● 会報誌 第50号特別版発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学乳パック回収量：180トン ○ 秘密書類回収量：691トン
平成24 (2012) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員数：429 市民団体：47、地域ごみ減：158、マスメディア：10、専門家：5、大学等：15、事業者団体：38、企業等：155、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページリニューアル ● 会報誌の体裁変更 	<ul style="list-style-type: none"> ● 京都グリーン購入ネットワーク「新春 グリーン購入交流会」において「めぐレット」が第3位入賞 ● 「めぐレット」ちらし、包装のデザイン変更 ○ 学乳パック回収量：171トン ○ 秘密書類回収量：689トン

20年のあゆみ（年表）

地域活動実行委員会	2 R型エコタウン構築事業実行委員会	国、京都市の動き（○：国、●：京都市）
<ul style="list-style-type: none"> ●菜の花プロジェクト・ひまわりプロジェクト開始（～H22） ○地域ごみ減新規設立数：9 （京北（山国）、弘道、山王、祥豊、朱雀第八、永松、梅逕（下京区）、豊園、有隣） 	<ul style="list-style-type: none"> ●「リペア・リメイク情報発信」事業開始（～H26）、京のお直し屋さん紹介サイト「もっぺん」公開（～現在） ●「エコ商店街」事業の開始（～H26）出町商店街での取組開始（～H21） ●レジ袋削減・簡易包装等の推進（旧：買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン）（H9～H20） ●リユース容器的推進（「リユースびん事業化活動」から発展）（～H26） 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次循環型社会形成推進基本計画策定 ●プラスチック製容器包装分別収集を全世帯に拡大 ●使用済てんぷら油回収事業助成制度の開始
<ul style="list-style-type: none"> ●地域ごみ減代表者会議・全体会議の開催（～現在） ○地域ごみ減新規設立数：24 （嵐山、郁文、大原、皆山、北梅津、吉祥院、久世（大築町、大藪町、上久世町、築山町、殿城町、中久世町、東土川町）、修徳、尚徳、陶化、中川、西大路、西京極、梅逕（南区）、東梅逕、柊野、南大内、安井） 	<ul style="list-style-type: none"> ●もっぺんラジオ放送の実施 ●リユースびんの購入・利用促進実施 ●2 R普及啓発活動開始（～H24） 	<ul style="list-style-type: none"> ●生ごみ等の分別収集による新たなエネルギー生成モデル実験開始
<ul style="list-style-type: none"> ●行政区ごみ減の立ち上げ開始 ○地域ごみ減新規設立数：18 （安朱、梅屋、大宅、小栗栖宮山、春日野、西院第二、朱雀第五、朱雀第七、住吉、龍池、竹間、宕陰（越畑、密畑）、日彰、日野、深草、南浜、桃山） ※桂徳の退会 	<ul style="list-style-type: none"> ●「もっぺん出張所」開始（～現在） ●買い物袋持参キャンペーン実施（旧：レジ袋削減・簡易包装等の推進） ●新規リユースびん回収モデル事業の開始（～H23） ●買い物でエコキャンペーン実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●使用済小型家電の拠点回収を開始（モデル実施） ●「みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プランー京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020ー）」策定
<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：14 （板橋、市原野、一橋、太秦、金閣、西院第一、修道、松陽、新道、朱雀第六、藤城、藤森、養正、立誠） ※皆山の退会 	<ul style="list-style-type: none"> ●北野商店街での「エコ商店街」取組開始（～H24） ●容器包装削減事業開始（～H26（旧：買い物でエコキャンペーン）） ●北区におけるレジ袋削減モデル取組の実施 ●リユースびん・飲料容器ごみに関する啓発講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●まち美化事務所環境拠点（エコまちステーション）を区役所・支所に設置 ●記憶媒体類、古着類、刃物類の拠点回収開始 ●生ごみ・落ち葉等堆肥化活動助成制度の開始 ●業者収集ごみの透明袋による排出義務化 ●古紙類の拠点回収開始
<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：8 （池田東、今熊野、格致、北醍醐、教業、七条、醍醐、横大路） 	<ul style="list-style-type: none"> ●2 R啓発講座「ものづくり小学校」開催（～H24） ●容器包装削減事業「ようきにへらそうキャンペーン」（北区）実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●小型二次電池、ボタン電池、使い捨てライター、水銀体温計、インクカートリッジの拠点回収開始 ●「都市油田」発掘プロジェクト開始 ●「第6回3 R推進全国大会」開催 ●大型ごみのリユースモデル実験の開始 ●移動式資源回収モデル事業実施
<ul style="list-style-type: none"> ○地域ごみ減新規設立数：5 （稻荷、菊浜、乾隆、境谷、向島南） 	<ul style="list-style-type: none"> ●容器包装削減事業「ようきにへらそうキャンペーン」（東山区）実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○第四次環境基本計画策定 ○小型家電リサイクル法制定 ●グリーンセンターにおける紙ごみ分別回収開始 ●マーケット回収助成制度の開始 ●雑がみ保管袋の配布 ●『「バイオ軽油」実用化プロジェクト』の開始 ●「生ごみ3キリ運動」を開始 ●東部グリーンセンターの休止

年度	組織に関すること	普及啓発実行委員会	ごみ減量事業化実行委員会
平成25 (2013) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●「持続可能な組織運営に向けた行動計画」策定 ○会員数：439 市民団体：47、地域ごみ減：167、マスメディア：10、専門家：5、大学等：15、事業者団体：37、企業等：157、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報 パンフレットリニューアル ●講座（企業向け実践講座（H12～）、こどもワークショップ（H13～）、3R・低炭素社会検定支援（H21～）、ものづくり小学校（H23～）、市民向け講座（H25～）を集約実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民等からの提案によるごみ減量モデル事業（～現在（旧：市民公募型パートナーシップ事業））（助成額100万円（上限）の助成枠を新設） ○学乳パック回収量：174トン ○秘密書類回収量：738トン
平成26 (2014) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○会員数：444 市民団体：47、地域ごみ減：175、マスメディア：10、専門家：5、大学等：16、事業者団体：35、企業等：155、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●広報・ホームページの運用（～現在（旧：広報）） ●「紙フェス」の開催 ●「ごみにまつわる映画祭」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○学乳パック回収量：168トン ○秘密書類回収量：798トン
平成27 (2015) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●設立20周年記念事業実行委員会の設置（～H28） ○会員数：478 市民団体：47、地域ごみ減：199、マスメディア：8、専門家：5、大学等：17、事業者団体：36、企業等：165、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> ●啓発ラジオキャンペーンの実施 ●「布フェス」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●「めぐレット」ちらしの改訂、ポスター作成 ●市民等からの提案によるごみ減量モデル事業に「家庭ごみ減量モデル事業」枠を新設 ○学乳パック回収量：102トン ○秘密書類回収量：902トン
平成28 (2016) 年度	<ul style="list-style-type: none"> ●設立20周年記念事業実行委員会（～H28）（記念式典開催：12/18） ●リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰「環境大臣賞」受賞 ●京都市自治記念式典「未来の京都まちづくり推進表彰」受賞 ○会員数：505 市民団体：48、地域ごみ減：201、マスメディア：5、専門家：5、大学等：19、事業者団体：38、企業等：188、行政：1 	<ul style="list-style-type: none"> 【実施事業（継続事業再掲）】 ●広報・ホームページの運用 ●会報誌の発行 ●ごみ減量啓発イベント ●講座 「食べものどうなるの？」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 【実施事業（継続事業再掲）】 ●再生紙利用促進事業 ●市役所前フリーマーケット ●市民等からの提案によるごみ減量モデル事業 ●秘密書類リサイクル事業

平成19～28年度の活動写真



イベントへの参加（ブース出展）



紙フェス



めぐレット（ポスター）

20年のあゆみ（年表）

地域活動実行委員会	2R型エコタウン構築事業実行委員会	国、京都市の動き（○：国、●：京都市）
<ul style="list-style-type: none"> ●「ごみ減量推進のためのリーダー養成講座の開催及び地域における取組の推進」の実施 ○地域ごみ減新規設立数：9 (乾、久我、朱雀第一、銅駝、西陣、松尾、向島藤ノ木、淀、淀南) 	<ul style="list-style-type: none"> ●容器包装削減事業「ようきにへらそうキャンペーン」(右京区)実施 ●宝酒造(株)から、容器包装の削減に寄与する動画を活用した「動画募金」による寄付を受納 	<ul style="list-style-type: none"> ○第三次循環型社会形成推進基本計画策定 ○小型家電リサイクル法施行 ●包装紙等の雑がみ分別リサイクル拡大に向けた社会実験を開始 ●食べ残しゼロ優秀店舗認定制度モデル事業の実施
<ul style="list-style-type: none"> ●「ごみ減量推進講座の開催及び地域における取組の推進」の実施 ○地域ごみ減新規設立数：8 (川岡東、久我の杜、修学院第二、竹田、二の丸北、向島、向島二ノ丸、柳池) 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規プロジェクトの検討(事例調査、「ごみ減太郎のくらし」作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ●京都ならではの「雑がみの分別・リサイクル」を全市展開 ●「新・京都市ごみ半減プランー京都市循環型社会推進基本計画(2015-2020)ー」策定 ●京都市廃棄物減量等推進審議会から「環境先進都市・京都の更なる進化に向けた今後のごみ減量施策の在り方について(答申)～「ピーク時からのごみ半減」と資源の更なる有効な利用を目指して～」を市長に提出 ●民間事業者の宅配便による小型家電モデル回収の開始
<ul style="list-style-type: none"> ●学区・行政区版ごみ減量推進講座の実施 ○地域ごみ減新規設立数：24 (嵐山東、岩倉北、岩倉明德、久多、桂徳、静原、修学院、城巽、新洞、新林、生祥、成徳、竹の里、羽束師、初音、花脊、広河原、富有、別所、本能、水尾、明倫、吉田、稚松) 	<ul style="list-style-type: none"> ●2Rモデル実施事業(～現在) 家庭でのごみ排出抑制を通じた2R実践事業の実施 ●2R文化発信事業(～現在) 「整理収納+2R」事例作り、ワークショップ開催 ●リユース情報まとめサイト作成 ●2Rサービス紹介事業(～現在、(旧：リペア・リメイク情報発信)) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」施行、市民モニター制度開始
<p>【実施事業(継続事業再掲)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域ごみ減量推進会議の設立支援 ●地域ごみ減代表者会議・全体会議の開催 ●行政区単位でのごみ減量活動支援 ●地域ごみ減施設見学会の実施 ●地域ごみ減支援講座の開催 (ごみ減量推進講座／ふるしき活用講座) ○地域ごみ減新規設立数：2 (大枝、桃園) 	<p>【実施事業(継続事業再掲)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2Rモデル実施事業 コミュニティガーデンに関する調査の実施 ●2R文化発信事業 リーフ茶の普及でペットボトルを減らそうキャンペーン実施 「整理収納+2R」講座の開催 ●2Rサービス紹介事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●せん定枝の分別・リサイクル推進モデル事業の開始 ●「京都市ごみ半減・こごみアプリ」の配信開始



地域ごみ減施設見学会



もっぺん出張所
(於：市役所前フリーマーケット)



ようきにへらそうキャンペーン

表彰

当会議の活動が評価され、次の表彰を受けました。

京都市自治記念式典

京都市では毎年10月15日を「自治記念日」として、京都に息づく自治の精神の大切さを再確認するとともに、市政の推進に尽力された方々の御功績をたたえ、表彰状が贈呈されています。

平成18年には、高月紘会長が「環境保全功労者特別表彰」、当時の理事及び会員のうち10年継続団体、地域ごみ減量推進会議が「ごみ減量推進特別感謝状」を受賞。

平成28年10月15日、当会議、京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会、地域ごみ減量推進会議 89団体（下欄参考）が、「未来の京都まちづくり推進表彰^{*}」を受けました。

※未来の京都まちづくり推進表彰：「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」に掲げる各分野において、京都ならではの新しい自治モデルを築くための活動に尽力されている方の功績をたたえ、表彰するもの

〈地域ごみ減量推進会議 表彰者一覧〉

葵地域ごみ減量推進会議
栗田地域ごみ減量推進会議
安寧女性会ごみ減量推進会議
宇多野地域女性会ごみ減量推進会議
梅津地域ごみ減量推進会議
大塚学区ごみ減量推進委員会
大原野地域ごみ減量推進会議
大宮地域ごみ減量推進会議
小川学区地域ごみ減量推進会議
音羽学区地域ごみ減量推進会議
音羽川保健協議会
小野地域ごみ減量推進会議
御室地域女性会ごみ減量推進会議
鏡山学区ごみ減量推進会議
春日地域ごみ減量推進会議
椋原地域ごみ減量推進会議
桂川地域ごみ減量推進会議
桂坂地域ごみ減量推進会議
桂地域ごみ減量推進会議
桂東地域ごみ減量推進会議
葛野地域ごみ減量推進会議
上賀茂地域ごみ減量推進会議
上高野地域ごみ減量推進会議
上烏羽地域ごみ減量推進会議
唐橋地域ごみ減量推進会議
川岡地域ごみ減量推進会議
川東学区地域ごみ減量推進会議
勸修学区リサイクル推進委員会
北白川ごみ減量推進会議
京極地域ごみ減量推進会議

九条地域ごみ減量推進会議
弘道地域ごみ減量推進会議
嵯峨地域ごみ減量推進会議
嵯峨野地域女性会ごみ減量推進会議
山階学区地域ごみ減量推進会議
山階南学区リサイクル推進委員会
山王地域ごみ減量推進会議
滋野地域ごみ減量推進会議
紫竹地域女性会ごみ減量推進会議
七条第三学区保健協議会ごみ減量推進会議
下鴨地域ごみ減量推進会議
下烏羽地域ごみ減量推進会議
聚楽ごみ減量推進会議
淳風地域ごみ減量推進会議
祥栄学区地域ごみ減量推進会議
聖護院学区ごみ減量推進会議
祥豊地域ごみ減量推進会議
植柳地域ごみ減量推進会議
朱雀第三学区地域ごみ減量推進会議
朱雀第二学区地域ごみ減量推進会議
朱雀第八学区地域ごみ減量推進会議
朱雀第四学区地域ごみ減量推進会議
砂川地域ごみ減量推進会議
成逸地域ごみ減量推進会議
正親地域ごみ減量推進会議
待賢ごみ減量推進会議
醍醐西地域ごみ減量推進会議
大將軍女性会ごみ減量推進会議
待鳳学区地域ごみ減量推進会議
高雄学区ごみ減量推進会議

鷹峯地域ごみ減量推進会議
中立ごみ減量推進会議
月輪リサイクル推進会議
出水地域ごみ減量推進会議
塔南地域ごみ減量推進会議
東和地域ごみ減量推進会議
常盤野地域ごみ減量推進会議
百々学区リサイクル推進委員会
永松地域ごみ減量推進会議
納所地域ごみ減量推進会議
梅逕安心安全ネットワークごみ減量推進会議
花園地域女性会ごみ減量推進会議
広沢地域ごみ減量推進会議
福西地域ごみ減量推進会議
豊園学区ごみ減量推進会議
鳳徳地域ごみ減量推進会議
松ヶ崎ごみ減量推進会議
南太秦女性会ごみ減量推進会議
紫野学区地域ごみ減量推進会議
室町地域ごみ減量推進会議
メガロコープ西陣町内会
元町ごみ減量推進会議
桃山南ごみ減量推進会議
山国地域ごみ減量推進会議
山科西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」
山ノ内地域ごみ減量推進会議
有隣学区ごみ減量推進会議
陵ヶ岡学区地域ごみ減量推進会議
六原地域ごみ減量推進会議

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰

3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）に率先して取り組み、顕著な実績を挙げている方々を表彰し、これらの活動を奨励することを目的とした表彰。当会議は、平成18年にも「内閣府特命担当大臣賞」を受賞。

今回、平成28年10月25日に授賞式が行われ、山内副館長が出席し、「環境大臣賞」を受賞しました。



授賞式の様子

更なる発展に向けて～委員長からのメッセージ～

副会長

地域活動実行委員会 委員長

山内 寛 (京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会会長)



京都市ごみ減量推進会議が設立して、今年で20年となりました。当会議の活動は会員をはじめとする各団体とのパートナーシップがあってこそ成り立っており、その中でも地域の活動の中心を担う地域ごみ減量推進会議は、欠かすことができない存在です。

「いつかは市域全域で地域ごみ減量推進会議が設立される」ことを目指して、平成8年度の最初の1団体を始まりとして呼びかけを進めてまいりましたが、今年度ようやく200団体目が設立し、市域全域での設立もあと少しに迫ってまいりました。

その地域での活動も、使用済てんぷら油の回収だけであったものが、今では環境学習会・イベントの実施、フリーマーケットやバザーの開催、落ち葉のたい肥化など、それぞれの地域特性を活かした活動が展開されるようになり、大変心強く感じています。

これからも、市域全域での設立を目指し、一体となって全市で地域に根差したごみ減量活動が進むよう、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

普及啓発実行委員会 委員長

設立20周年記念事業実行委員会 委員長

中田 富士男 (元(株)京都放送ラジオ営業局)



京都市ごみ減量推進会議20周年おめでとうございます。発足から20年が経ち会員数も500を超える団体になりました。

20年の歩みのなかで、再生紙推進事業・市役所前フリーマーケット・秘密書類リサイクル事業・2R型エコタウン構築事業等いろいろな先進的な事業を行ってきました。

しかし、時代の移り変わりは激しく、少子高齢化の波や、食品ロス等、新たな難しい問題に直面しています。これらの課題の取り組むうえで、環境面だけではなく、福祉・教育・まちづくり等いろいろな分野との連動が必要になってきています。

幸い、京都市ごみ減量推進会議には、様々なジャンルの会員が加入しており、力を合わせれば問題の解決に寄与できます。皆様と一緒に今後ともごみゼロを目指して頑張りたいと思います。

ごみ減量事業化実行委員会 委員長

斎藤 敬 (日本チェーンストア協会関西支部参与)



「京都市ごみ減量推進会議」が20周年を迎えたこと、心よりお祝いを申し上げます。

日本国内の都道府県、市町村の環境取組で、常にトップランナーを走り続けている京都市。その取組の中でも「ごみ減量」に関しての礎を築き上げたのが「ごみ減量推進会議」であると申し上げても過言ではありません。

現在、環境問題については、様々な課題がございますが、「ごみ減量」についても「フードロス問題」が大きくクローズアップされています。この問題は、「行政」「事業者」「市民」が一体となって力を合わせる必要があります。これからの10年において「京都市ごみ減量推進会議」では、この三者が一体となれるパイプ役として活躍していただくことを期待しております。

私たち、事業者も可能な限り協力、アシストしていきたいと考えております。

簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

2R型エコタウン構築事業実行委員会 委員長

浅利 美鈴 (京都大学地球環境学堂准教授)



約20年前、学生だった私は、よくわからぬままごみ減の広報誌の取材に勧誘され、活動にかかわるようになりました。会員の企業や団体を紹介する記事を担当しましたが、普通だったら行かないようなところも多く、駅からの道のりや迷った路地の風景が今でも思い出されます。と同時に、この中で、多様な活動や人について学ばせて頂いたなあと思います。それは、地域ごみ減の方々とかかわりでも同じです。ごみ出しのマナーやごみ減量の工夫から、近所づきあいのことまで、それは大変いろいろな知恵を授けていただきました。ごみ減は、私にとっては生きた勉強の場でした。

そして、これから。今、特に力を入れている「2R」の取組は、「しまつのころ」を具体的に暮らしに取り戻す試みだと思えます。諸先輩方から学び、できればそれを様々な世代や国・地域の方にも伝えられるよう、「比較的、若手」として頑張りたいと思っています。今後とも、よろしく御指導お願いいたします。

会員一覽 (505団体 (平成29年3月現在))

当会議は、市民・事業者・行政の皆様のパートナーシップのもと活動を実施しています。
これからも御理解、御協力をよろしくお願いします。

市民 (市民団体、消費者団体、環境団体など) 48会員

i-Ten-Labo	京都市消費者モニター等経験者の会	NPO法人 コンシューマーズ京都(京都消団連)
NPO法人 KES環境機構	(社福)京都市社会福祉協議会	省エネ普及ネット・京都
美しい祇園祭をつくる会	京都市生活学校連絡会	住みよい京都をつくる婦人の会
エコ京都	京都市地域女性連合会	(社福)大五京 衣笠こども園
NPO法人 杜	京都市深草児童館運営委員会	地域一体コラボエコ
おむつなし育児研究所京都サロン	京都市保健協議会連合会	NPO法人 地域環境デザイン研究所ecotone
鴨川町乙女会	(社福)京都市山科区社会福祉協議会	NPO法人 使い捨て時代を考える会
NPO法人 環境安全センター	京都自由学校	ナチュラル・フィールド
環境共育事務所カラーズ	NPO法人 京都消費生活有資格者の会	西京都共同購入会
認定NPO法人 環境市民	(一社)京都市老人クラブ連合会	日本環境保護国際交流会(J.E.E.)
NPO法人 木野環境	(公社)京都青年会議所	日本共産党 京都北地区委員会
京都R	NPO法人 京都地球温暖化防止府民会議	日本共産党 京都府委員会
(公財)京都YMCA	(一社)京都ボランティア協会	NPO法人 プラスワンネットワーク
(公財)京都YWCA	NPO法人 京のまち・梅小路を美しくする会	ふるしき研究会
京都市PTA連絡協議会	(一社)蛍光管リサイクル協会	みんなのヴィジョン創造研究所
京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会	こぶしの会	NPO法人 リアル・リンク京都

地域ごみ減量推進会議 201会員

葵地域ごみ減量推進会議	格致ごみ減量推進会議	久多学区ごみ減量推進会議
嵐山地域女性会ごみ減量推進会議	春日地域ごみ減量推進会議	桂徳地域ごみ減量推進会議
嵐山東地域ごみ減量推進会議	春日野学区地域ごみ減量推進会議	乾隆地域女性会ごみ減量推進会議
栗田地域ごみ減量推進会議	椋原地域ごみ減量推進会議	弘道地域ごみ減量推進会議
安朱学区地域ごみ減量推進会議	桂川地域ごみ減量推進会議	久我地域自治連合会ごみ減量推進会議
安寧女性会ごみ減量推進会議	桂坂地域ごみ減量推進会議	久我の杜自治連合会地域ごみ減量推進会議
郁文学区ごみ減量推進会議	桂地域ごみ減量推進会議	越畑自治会ごみ減量推進会議
池田東学区地域ごみ減量推進会議	桂東地域ごみ減量推進会議	西院第一自治連合会地域ごみ減量推進会議
板橋学区地域ごみ減量推進会議	葛野地域ごみ減量推進会議	西院第二自治連合会地域ごみ減量推進会議
市原野環境委員会ごみ減量推進会議	上賀茂地域ごみ減量推進会議	境谷学区地域ごみ減量推進会議
一橋地域ごみ減量推進会議	上高野地域ごみ減量推進会議	嵯峨地域ごみ減量推進会議
稻荷保健協議会ごみ減量委員会	上烏羽地域ごみ減量推進会議	嵯峨野地域女性会ごみ減量推進会議
乾学区地域ごみ減量推進会議	唐橋地域ごみ減量推進会議	山階学区地域ごみ減量推進会議
今熊野学区ごみ減量推進会議	川岡地域ごみ減量推進会議	山階南学区リサイクル推進委員会
岩倉北学区ごみ減量推進会議	川岡東地域ごみ減量推進会議	山王地域ごみ減量推進会議
岩倉明徳学区ごみ減量推進会議	川東学区地域ごみ減量推進会議	栢原女性会ごみ減量推進会議
太秦地域ごみ減量推進会議	勧修学区リサイクル推進委員会	滋野地域ごみ減量推進会議
宇多野地域女性会ごみ減量推進会議	菊浜学区ごみ減量推進会議	静原学区ごみ減量推進会議
梅津地域ごみ減量推進会議	北梅津ごみ減量推進会議	紫竹地域女性会ごみ減量推進会議
梅屋学区地域ごみ減量推進会議	北白川ごみ減量推進会議	七条学区ごみ減量推進会議
大枝学区地域ごみ減量推進会議	北醍醐学区地域ごみ減量推進会議	七条第三学区保健協議会ごみ減量推進会議
大塚学区ごみ減量推進委員会	吉祥院地域ごみ減量推進会議	下鴨地域ごみ減量推進会議
大原地域ごみ減量推進会議	授業学区地域ごみ減量推進会議	下烏羽地域ごみ減量推進会議
大原野地域ごみ減量推進会議	京極地域ごみ減量推進会議	修学院学区ごみ減量推進会議
大宮地域ごみ減量推進会議	金閣学区地域ごみ減量推進会議	修学院第二地域ごみ減量推進会議
大宅学区地域ごみ減量推進会議	九条地域ごみ減量推進会議	修道女性会地域ごみ減量推進会議
小川学区地域ごみ減量推進会議	久世大築町地域ごみ減量推進会議	修徳学区ごみ減量推進会議
小栗栖宮山自治町内会地域ごみ減量推進会議	久世大藪町地域ごみ減量推進部会	朱八地域ごみ減量推進会議
音羽学区地域ごみ減量推進会議	久世上久世町地域ごみ減量推進会議	聚楽ごみ減量推進会議
音羽川保健協議会	久世築山町地域ごみ減量推進会議	淳風地域ごみ減量推進会議
小野地域ごみ減量推進会議	久世殿城町地域ごみ減量推進会議	祥栄地域ごみ減量推進会議
御室地域女性会ごみ減量推進会議	久世中久世町地域ごみ減量推進会議	聖護院学区ごみ減量推進会議
鏡山学区ごみ減量推進会議	久世東土川町地域ごみ減量推進会議	城巽学区地域ごみ減量推進会議

尚徳地域女性会
 祥豊地域ごみ減量推進会議
 松陽学区地域ごみ減量推進会議
 植柳地域ごみ減量推進会議
 新洞学区ごみ減量推進会議
 新林学区地域ごみ減量推進会議
 新道地域ごみ減量推進会議
 朱雀第一学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第五学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第三学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第七学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第二学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第四学区地域ごみ減量推進会議
 朱雀第六学区地域ごみ減量推進会議
 砂川地域ごみ減量推進会議
 住吉学区地域ごみ減量推進会議
 成逸地域ごみ減量推進会議
 生祥学区地域ごみ減量推進会議
 正親地球温暖化防止協力委員会
 成徳地域ごみ減量推進会議
 待賢ごみ減量推進会議
 醍醐学区地域ごみ減量推進会議
 醍醐西地域ごみ減量推進会議
 大將軍女性会ごみ減量推進会議
 待鳳学区地域ごみ減量推進会議
 高雄学区ごみ減量推進会議
 鷹峯地域ごみ減量推進会議
 竹田学区地域ごみ減量推進会議
 竹の里地域ごみ減量推進会議
 龍池学区地域ごみ減量推進会議
 竹間学区地域ごみ減量推進会議
 中立ごみ減量推進会議
 月輪リサイクル推進会議
 出水地域ごみ減量推進会議

桃園地域ごみ減量推進会議
 陶化地域ごみ減量推進会議
 銅鉦学区地域ごみ減量推進会議
 塔南地域ごみ減量推進会議
 東和地域ごみ減量推進会議
 常磐野地域ごみ減量推進会議
 百々学区リサイクル推進委員会
 中川地域ごみ減量推進会議
 永松地域ごみ減量推進会議
 西大路保健協議会ごみ減量推進会議
 西京極地域女性会ごみ減量推進会議
 西陣学区地域ごみ減量推進会議
 日彰学区地域ごみ減量推進会議
 二の丸北学区地域ごみ減量推進会議
 納所地域ごみ減量推進会議
 梅逕安心安全ネットワークごみ減量推進会議
 梅逕地域ごみ減量推進会議
 羽束師地区自治連合会地域ごみ減量推進会議
 初音学区地域ごみ減量推進会議
 花脊学区ごみ減量推進会議
 花園地域女性会ごみ減量推進会議
 東梅逕地域ごみ減量推進会議
 日野学区地域ごみ減量推進会議
 柁野地域ごみ減量推進会議
 広河原学区ごみ減量推進会議
 広沢地域ごみ減量推進会議
 深草学区地域ごみ減量推進会議
 福西地域ごみ減量推進会議
 藤城学区地域ごみ減量推進会議
 藤森学区地域ごみ減量推進会議
 富有学区地域ごみ減量推進会議
 別所学区ごみ減量推進会議
 豊園学区ごみ減量推進会議
 鳳徳地域ごみ減量推進会議

本能学区地域ごみ減量推進会議
 松尾学区地域ごみ減量推進会議
 松ヶ崎ごみ減量推進会議
 水尾ごみ減量推進会議
 南太秦女性会ごみ減量推進会議
 南大内地域ごみ減量推進会議
 南浜学区地域ごみ減量推進会議
 向島学区地域ごみ減量推進会議
 向島二ノ丸学区地域ごみ減量推進会議
 向島藤ノ木学区地域ごみ減量推進会議
 向島南学区地域ごみ減量推進会議
 紫野学区地域ごみ減量推進会議
 室町地域ごみ減量推進会議
 明倫学区地域ごみ減量推進会議
 メガロコープ西陣町内会
 元町ごみ減量推進会議
 桃山学区地域ごみ減量推進会議
 桃山南ごみ減量推進会議
 安井婦人会ごみ減量推進会議
 山国地域ごみ減量推進会議
 山科西野地域ごみ減量推進会議「めぐる会」
 山ノ内地域ごみ減量推進会議
 有隣学区ごみ減量推進会議
 養正田中まちづくり地域ごみ減量推進会議
 横大路地域ごみ減量推進会議
 吉田学区地域ごみ減量推進会議
 淀学区地域ごみ減量推進会議
 淀南学区地域ごみ減量推進会議
 楽只地域ごみ減量推進会議
 立誠学区地域ごみ減量推進会議
 柳池学区地域ごみ減量推進会議
 陵ヶ岡学区地域ごみ減量推進会議
 六原地域ごみ減量推進会議
 稚松地域ごみ減量推進会議

マスメディア 5会員

朝日新聞京都支局
 (株)ジュピターテレコム

(株)京都新聞社
 (株)京都放送

洛西ケーブルビジョン(株)

専門家(学識経験者) 5会員

勝矢 淳雄 氏
 郡嶋 孝 氏

高月 紘 氏
 武田 信生 氏

山川 肇 氏

大学等 19会員

大谷大学
 桂坂保育所
 京都学園大学
 京都工芸繊維大学
 京都女子大学 生命環境研究会
 京都市立芸術大学
 (学)京都成安学園

京都精華大学
 京都大学
 京都ノートルダム女子大学
 京都府立大学
 京都薬科大学
 (学)光華女子学園
 国際日本文化研究センター

(学)大五洋 衣笠幼稚園
 (学)大和学園
 花園中学高等学校
 佛教大学
 (学)両洋学園

事業者団体 38会員

関西故紙回収協同組合	(公財)京都市体育協会	京都府中小企業団体中央会
協同組合京都リサイクルセンター	(一財)京都市防災協会	京都府保健事業協同組合
京都家庭紙同業会	京都商工会議所	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合
京都硝子壺問屋協同組合	京都商店連盟	京都民主医療機関連合会
京都環境事業協同組合	京都生活協同組合	京都有機質資源再生事業協同組合
京都経営者協会	京都蛋白協同組合	(一財)京都ユースホステル協会
(公社)京都工業会	京都百貨店協会	京都料理飲食業国民健康保険組合
(公財)京都高度技術研究所	京都ビルデング協会	生活協同組合連合会 大学生協同組合 関西北陸事業連合
京都市紙リサイクル事業協同組合	(一社)京都府環境計量証明事業協会	全労済近畿京都府本部
(一社)京都市公認水道協会	京都府牛乳協会	出町商店街振興組合
京都市小売商総連合会	京都府小売酒販組合連合会	日本チェーンストア協会関西支部
京都市再生資源回収事業協同組合	京都府紙料協同組合	(一社)山科経済同友会
京都市生活環境事業協同組合	京都府生活協同組合連合会	

企業等 (法人・事業者等) 188会員

(株)GSユアサ	北山病院	晃和(株)
NKリサイクル長堀古紙	(株)木本商店	小坂産業(株)
RRH京都オペレーションズ合同会社	きもの染め替え 石橋	サンコール(株)
Sewing Cafe 風蝶庵	共進精機(株)	(株)ジェイ・エス・ビー
(株)SY	京セラ(株)	自然耕房販売(有)
旭商事	(株)京動開発	(有)時代工房
旭リスター(株)	(株)京都映画センター	(株)島津製作所
アスカ有機農園	(株)京都環境保全公社	(株)島津テクノリサーチ
(社福)嵐山寮	(株)京都銀行	島原病院
アルテスタ六地蔵店	京都ケアサービス(株)	(有)清水保険事務所
(有)五十嵐商店	(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	シミズ薬品(株)
石黒メディカルシステム(株)	(公財)京都市環境保全活動推進協会	(株)シュテルン京都 メルセデス・ベンツ京都中央
泉製紙(株)	京都紙工	(株)松栄堂
(株)今岡時計店(アルファジュエリー京都店)	(一社)京都市交通局協力会	(株)聖護院八ツ橋総本店
岩井コスモ証券(株)京都支店	京都市児童療育センター きらきら園	浄土真宗本願寺派宗務所
岩本司法書士事務所	(社福)京都社会事業財団 京都厚生園	シルバークロス(株)
ウェスティン都ホテル京都	(有)京都新聞定販売所	新日本流通(株)
医療法人社団 ウエノ診療所 いろり舎	京都信用金庫	(株)スキナ
(社福)永山会	京都第一赤十字病院	(株)スタジオニクロム
エコ・環境トータルプロジェクトサービス	京都第一法律事務所	住商アーバン開発(株)京都ファミリー
(株)エコサイクルコンポスト	京都醍醐センター(株)	(株)西洋ハウジング京都支店
エネテック京都(株)	京都中央信用金庫	積水化学工業(株)京都研究所
(株)畠り善	京都通信病院	(社福)全国手話研修センター
(株)エレファント	京都トヨペット(株)	相互企業(有)
おいでやす	(株)京都パープルサンガ	双日プラネット(株)
医療法人 鴨葵会 市田医院	(公社)京都保健会 京都民医連太子道診療所	(有)大工商店
大阪ガス(株)近畿圏部	(株)京都ホテル	醍醐病院
(株)オオマエ	京都三菱自動車販売(株)	宝酒造(株)
岡三証券(株)京都支店	京の寝匠 ふとんの中村屋	タカラ容器販売(株)
(株)岡野組	旭興産業(株)	(株)竹中工務店京都支店
おくの工芸	(株)キョープラ	(株)たけびし
(株)オート商会	(株)近畿地域づくりセンター 水環境研究所	(有)紘書房
オリオン(株)	(株)キンキホーム	タツミ産業(株)
カバンの病院 明石屋	キンシ正宗(株)	田中産業(株)
革研究所 京都店	京滋管工事業厚生年金基金	田村ふとん店
環協(株)	京阪バス(株)	ツカモト(株)京都支店
関西紙料(株)	月桂冠(株)	(株)データ・テクノ
関西電力(株)京都支社	(社福)健光園	(株)燈影設計工務
(株)カンポ	公栄運輸(株)	東京海上日動火災保険(株)京都本部
(株)菊水製作所	幸前税理士事務所	(株)トータルエコセンター

外村(株)
 (株)トヨタ
 (株)中川商店
 (株)中西塗料店
 なをし屋
 ニシムラ(株)
 (株)西利
 日新電機(株)
 日本ウエスト(株)
 日本銀行京都支店
 (株)日本サーモエナー京都工場
 日本紙業(有)
 日本写真印刷(株)
 日本新薬(株)
 日本たばこ産業(株)北関西支社
 日本通運(株)京都支店
 ネットトヨタヤサカ(株)
 (株)のうけん
 (株)展利商店
 (株)ノムラ
 野村證券(株)京都支店
 パソコン99サポート
 パタゴニア京都

(株)八代目儀兵衛
 パネフリ工業(株)
 阪神トラック(株)
 (有)ひのでやエコライフ研究所
 (株)ビューティフルツアー
 (有)平塚商事
 (株)福寿園
 福田匠庵
 フレームテック(有)
 (有)ヘルパステーションのぞみ
 (株)ヘルプ
 縫製工房 虹夢
 (社福)北桑会 高齢者総合福祉施設しゅうざん
 (株)北斗プリント社
 (株)細尾
 (株)ほりでん
 (株)堀場製作所
 (株)マツシマホールディングス
 丸真化学工業(株)
 マルホ(株)
 (有)萬善
 みずほ証券(株)京都支店
 三菱自動車工業(株)パワートレイン製作所 京都工場

(社福)壬生老人ホーム
 (有)村田堂
 明成化学工業(株)
 (株)メスブ・コーポレーション
 ヤサカ観光バス(株)
 安田産業(株)
 (株)ヤマネ
 (株)山文
 山本司法書士事務所
 (株)山本清掃
 夢設計
 由利ロール(株)
 (株)リカーマウンテン
 (宗教法人)立正佼成会京都教会
 リゾートトラスト(株)サンメンバーズ京都嵯峨
 (株)麗光
 (株)レポインターナショナル
 六原サービスセンター協同組合
 六和証券(株)
 ローム(株)
 (株)和晃
 (株)ワコール

行政 1会員

京都市

設立20周年記念事業実行委員会

委員長：中田 富士男

委員：浅野 和子、有川 真理子、井上 和彦、岡松 誠一、織田 英夫、高橋 かつ子、原 強、森田 知都子

京都市ごみ減量推進会議 20周年記念誌
 「手を取りあって、ごみを減らそう！」

平成29年3月発行

京都市ごみ減量推進会議

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
 京エコロジーセンター活動支援室内
 TEL (075)647-3444 FAX (075)641-2971
 E-mail : gomigen@kyoto-gomigen.jp
 HP : <http://kyoto-gomigen.jp/>



京エコロジーセンター

20th anniversary

手を取りあって ごみを減らそう！

なぜ、ごみを減らすのか？

ごみは、最初からごみだったわけではなく、すべてあらゆる商品や製品でした。

「ごみを捨てる」ことは、まさに私たちが使ってきた
「商品や製品を捨てる」ということです。

いま、私たちはその意味をもう一度、考えなければいけません。

商品や製品は農作物、木材、金属や石油など、すべて
地球のかけがえのない資源やエネルギーで作られています。

ごみを減らすということは、つまり、地球の資源・エネルギーを
できるだけ大切にしていこうとする活動なのです。

それは、地球温暖化対策や生物多様性の保全など、
地球への環境負荷を減らすことにもつながっていきます。

そのためには、商品や製品の大量生産・大量消費を
見直すことが重要なキーポイントとなるのです。

ごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしを実現するために、
みんなで手を取り合って、取り組んでいきましょう！

